

# 山田耕筰

没後50年に寄せる

（明治、大正、昭和）

日本うた



瀧廉太郎が遺した唱歌への想い、  
山田耕筰が詩人・北原白秋と切り開いた日本歌曲の歴史、  
明治、大正、昭和の作曲家たちが現代に伝えたい、  
「日本人の心のふるさと」とは――？



このほど町村合併10周年を記念して高知県いの町（旧伊野町）に新本庁舎が完成し、同庁舎内に「いの町新本庁舎完成記念式典」が同時にオーブンした。いの町は、20年以上にわたり生活をともにした私の祖父で音楽の師匠である作曲家・平井康三郎（本名・保喜）が生まれ育った町。現在、仁淀川の水の恵みを受け、千年に

わたり土佐和紙発祥の地として栄えてきた。また、いの町には美しい自然とともに、土蔵作りや格子の窓など、古い家並みが今なお残り、日本の原風景を思わせる風情がある。（写真は6・7ページに掲載）

2015年5月9日午後、塩田始町長によるテープカットの後、多くの来賓が集まり、いのホールで「いの町新本庁舎完成記念式典」が執り行われ、後半の式典セレモニーでは私の父であるチエリスト・

## 平井康三郎の故郷に 記念ギャラリーがオーブン

平井元喜（ピアニスト・作曲家）



いの町新本庁舎1Fにある平井康三郎記念ギャラリー。地元の木材や和紙がふんだんに使われた温もりある空間



「いの混声合唱団」（指揮：平井丈一朗）。いの町新本庁舎完成記念式典セレモニーにて



平井丈一朗 チェロ・記念コンサート ピアノ：平井元喜

いのホールこけら落しとなった「平井丈一朗チェロ記念コンサート」（ピアノ：平井元喜）

翌10日には、いのホールこけら落しぶつ。仁淀ブルーと至高の調べ、「いの江戸」が開催され、希望者多数のため一日2回公演となつた。ピアノ伴奏は口ンドンより一時帰国して私自身が務め、ヴィヴァルディ「ソナタ4番変ト調」やベートーヴェン「ソナタ第3番イ長調作品69」などチエロの名曲に加え、平井康三郎作曲の「ゆりかご」（チエロ版は1948年作曲で歌曲にない短調の中間部や独自のコーダをもつ）や祖父が当時高校生だった父のために書いた「さくらさくら」によるパラフレーズ（1953）、平井丈一朗自作の「幻想曲」（W2）（2013）などを演奏した。聴衆は、南国土佐らしく終始熱狂的に迎えてくれた。

新設「平井康三郎記念ギャラリー」には、大正期・昭和初期の写真に始まり、今やヴァイントレージともいえる珍しい写真の数々、自筆記録、パナマハットに加え、土佐人として酒をこよなく愛した祖父の徳利と猪口など、私にとつても思い出深い遺品が飾られていて興味が尽きなかつた。読者の皆様にも土佐の郷土料理、温泉などとともにぜひ一度いの町と平井康三郎記念ギャラリーに足を運んでいただきたい。